

I はな組（年少児）保育案

平成29年11月17日(金)
 保育者 中村共芳・坂元久美子
 男児10人 女児9人 計19人

本園研究テーマ

遊びの中で育まれる子どもの学び
 ～幼稚園教育要領改訂のポイントを踏まえた保育実践～

研究テーマに基づくはな組（年少児）の姿

自分の好きな遊びを見つけ、友達と関わって遊ぶ姿

1 幼児の実態

入園して半年が過ぎ、子どもたちは幼稚園での生活に慣れ、進んで登園し、幼稚園で好きな遊びをすることを楽しんでいる。身の回りの所持品の始末についても、自分でできることが増え、次は何をしなければならないのか、自分で考えて行動しようとするようになってきた。

園庭は秋らしくなっていており、葉が色付き、葉っぱや木の実が落ちたりしている。子どもたちはそれを見つけ、拾って見せ合ったり、ままごとのごちそうに使ったりする姿が見られる。また、友達と一緒に固定遊具を遊んだり、かくれんぼをして駆け回ったりして体を動かして遊ぶことを楽しんでいる。

室内では、いろいろな素材に興味をもち、大きさの異なる箱やストローなどを組み合わせ、自分のつくりたいものをイメージしながらつくり、つくったものを友達や教師に見せている。折り紙を使って花や虫などをつくり、お店を開く姿も見られ始めた。

ごっこ遊びや積み木遊びでは、“パーティーのためのごちそうづくり” “お城づくり” など、数人の子どもが集まり、共通のイメージをもって遊びを進めようとするようになってきている。

友達と遊ぶことに楽しさを感じ、一緒に遊ぼうと友達の登園を心待ちにする様子や、自ら友達を誘って同じ遊びを始める姿が見られる。しかし、友達と遊びたい気持ちはあるものの、誰と遊ぶかや、何をして遊ぶかについていざこざになることもある。遊びを進めながら、教師と一緒に自分の思いを伝え、友達の思いを受け入れる経験を重ねている。

友達と一緒に遊ぶことに楽しさを感じ、もっと楽しく遊ぶためにはどうしたらよいか考え、思いを出し合いながら遊びを進めている子どもたちである。

2 研究の視点から

※ 幼稚園教育要領改訂のポイントである「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点から、本日の保育で見られると考えられる年少児の姿を下記に示した。

A 健康な心と体	B 自立心	C 協同性	D 道徳性・規範意識の芽生え
自分の好きな遊びを見つけ、体を動かす心地よさを感じる。	支度を済ませて好きな遊びに取り組みんだり、片付けを進んで行ったりする。	友達を誘って、一緒に同じ遊びをしようとする。	自分の思いを教師と一緒に友達に伝えたり、友達の思いを受け入れようとしたりする。
E 社会生活との関わり	F 思考力の芽生え	G 自然との関わり・生命尊重	
家庭で見たことや経験したことを、遊びの中で再現する。	友達がしていることを真似したり、不思議に思ったことを試したりする。	園庭の木の实や落ち葉を見つけ、拾って集め、秋の自然に親しむ。	
H 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	I 言葉による伝え合い	J 豊かな感性と表現	
積み木や木の実を数えたり、積み木を組み合わせる形をつくったりする。	自分のつくったものを友達に見せたり、役になりきってやりとりをしたりする。	身近な素材を使い、つくりたいものをイメージしながらつくる。	

3 IV期（11月～12月）の保育について

ねらい

- 好きな遊びを見つけて楽しむ中で、友達や先生との関わりを楽しむ。
- 身近な自然に触れて楽しく遊んだり、自然物を遊びに使ったりする。

内容

- いろいろな遊びに興味をもち、同じ遊びが好きな友達と関わることを楽しむ。
- 家族やテレビ、絵本などの登場人物になってごっこ遊びを楽しむ。
- 遊びの中で、先生や友達に自分の思いを伝えようとする。
- 素材や遊具に親しみながら、自分なりのイメージを表現しようとする。
- 身の回りの自然に興味をもち、落ち葉や木の実などを見つけて、色の変化や形の違いなどに気付いて遊ぶ。
- 身の回りのことや生活に必要なことを、できるだけ自分でしようとする。
- 食事に興味をもち、先生や友達と言葉を交わしながら楽しく食事をする。

○当日の遊び

・予想される遊び（これまでの遊び）

教師の思い

8:45~9:05
登園
9:05~
好きな遊び
10:25
片付け
降園準備
10:40
降園活動
・歌
・手遊び歌
・絵本
・振り返り
11:00
降園

今日は○○ちゃんと一緒に□□をして遊びたいな。

★ 本日の保育について

ねらい

- 自分の好きな遊びを、友達を誘ったり、友達の遊びに加わったりして一緒に楽しむ。
- 木の実や落ち葉などを探し、見つけたものを拾ったり見せ合ったりする。

保育に当たって

- これまでの遊びを思い出し、繰り返し取り組めるように環境を整え、進んで好きな遊びに取り組む姿を認める。
- 教師も一緒に遊びに加わる中で、必要に応じて友達に伝わる伝え方を示したり、一緒に伝えたりして、楽しく遊ぶことができるようにする。
- 秋の自然に興味をもち、秋のものを探す姿を認め、子どもの気付きに共感し、周りに気付きを知らせていく。
- つくった作品を子どもたちに紹介したり、展示したりし、その子なりの表現や発想のおもしろさを他の子どもたちに伝え、遊びが広がるようにする。

秋探し（自然を使った遊び） G H B

- ・ドングリやツバキの実、ひつきむしなどが落ちてい場所を思い出し、探しに行き、拾い集める。
- ・拾った木の実や落ち葉を友達と見せ合い、大きさを比べ合ったり、数を数えたり、色の違いに気付いたりする。
- ・見つけた木の実や落ち葉を袋に入れて並べる。

秋の自然に触れながら、子どもの気付きに共感し、周りの子どもたちと気付きを共有したい。

体を動かす遊び A C D

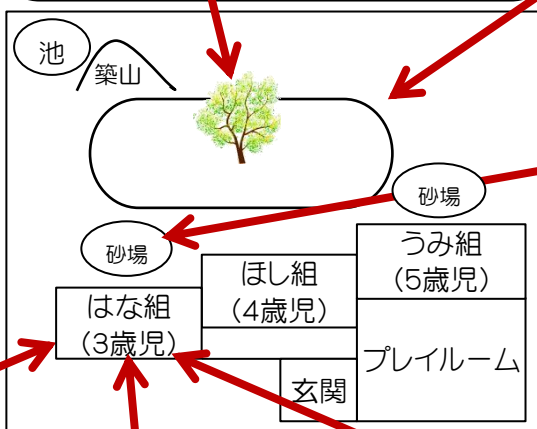
- ・友達と一緒に、隠れる人と見つける人に分かれてかくれんぼをする。
- ・丸太橋や雲梯などの固定遊具に挑戦しようとする。
- ・ボールやフラフープなどを使い、投げたり転がしたりして遊ぶ。
- ・滑り台を友達とタイミングを合わせて滑る。

思い切り体を動かす楽しさを感じてほしい。難しいところは側で支え、安心して挑戦できるようにしよう。

砂や水を使った遊び F G J

- ・砂と水の分量を考えながら、型抜きや泥団子をきれいにつくろうとする。
- ・パーティーやピクニックなどイメージを共有し、それに向けてごちそうをつくる。
- ・工事現場ごっこで、スコップを使って穴を掘ったり水を流したりする。

共通のイメージに向かって準備を進める姿を大切にしたい。それぞれの工夫も認めたい。



折り紙を使った遊び（製作遊び） B H C

- ・ドングリやイヌなどを折り、お店を開く。
- ・店員になり「どれにしますか？」と友達に尋ね、商品を渡すなどのやりとりをする。
- ・お金や財布をつくり、年上の友達の店に出掛けて買い物をする。

自分でできるところは自分で折るように言葉を掛けながら、つくった満足感を味わえるようにしたい。

積み木やブロックをつかった遊び（ごっこ遊び） C F H

- ・積み木を平面や斜めに並べ、その上を車輪状のブロックを転がし、転がる様子を見る。
- ・家や城のイメージを共有し、積み木を高く積み上げたビルや、高さを変えた城と壁をつくる。
- ・友達と同じように組み合わせを試みようとする。

積み木が転がるおもしろさや、形の違いなどにも気付いてほしい。友達と同じものをイメージしながらつくることができるよう声を掛けていこう。

ごっこ遊び E J I

- ・役になりきって会話をしたり、役が足りないときは友達を誘って一緒にしたりする。
- ・必要な道具をつかって身に付ける。
- ・年上の友達がしている劇などを見に行く。
- ・食事や着替えなど人形の世話をする。

自分のなりたい役になって振る舞う姿を認め、周りの子どもたちとイメージが共有できるようにしたい。